

令和 6 年度公益社団法人鹿児島県栄養士会事業報告

令和 6 年元旦に発災した能登半島地震は未曾有の痕跡を残しました。令和 6 年度に入っても、全国各地に想定外の災害や事故が続き、私たちは多くの亡くなられた方や被害を被った方々を目の当たりにしてきました。改めましてここに、心からご冥福をお祈りし、お見舞いを申し上げます。

私たちはこうした現実から何を学んだでしょうか。何を学ばなくてはいけなかったのでしょうか。人の微力さを痛感すると同時に、私たちの専門性にある『食のちから』がどんなに偉大なものか！私たち鹿児島県栄養士会会員は、思いを一つに、これからの備えていかなければなりません。

本会はこうした現状をしっかりと認識しながら、公益社団法人として様々な取り組みを展開してきました。県民の皆さんと会員の交流の場「県民公開講座」は、11 月 24 日会場を茶どころ南九州市「知覧文化会館」において開催しました。南九州市が健康課題としている腎臓病について、社会医療法人白光会白石病院腎臓内科部長徳永公紀先生に「慢性腎臓病(CKD)における生活習慣病の重要性」をご講演いただき、続いて鮎川ゆり子会員に、食生活の注意点をご講話いただきました。とてもわかりやすく、質問タイムにはお答えできないほどの手が上がり、お二人の先生に宿題としてお願いし、約束通り数日後回答は、参加された皆さんに返信されました。

会員の自己研鑽の場として開催しているリレー研修会は、年 5 回開催いたしましたが、参加者延べ 1040 人、様々なジャンルの先生方のご講話を楽しく拝聴しました。県内 5 医療職団体に構成する『かごしま臨床栄養連携研究会』は今回で 5 回目を迎え、それぞれの団体から“在宅ケアに生かす専門性”をテーマに発表されました。教育講演「訪問在宅歯科診療(廣島屋貴俊先生)」特別講演Ⅰ「緩和ケア(田村祐樹先生)」を拝聴し、特別講演Ⅱとしては、厚生労働省保健局医療課日名子まき栄養技官に登壇いただき、今回のトリプル改定の意図とするところなど、具体的にご教示いただきました。24 件の展示ブースも準備され、お互いに日頃手にすることのない食の形態やコンセプトなどを交換し合い、良い交流の場になりました。例年継続している「管理栄養士によるクッキング講座」も開催され、九州農政局との連携も更に深まっています。かごしま小児糖尿病サマーキャンプ関連事業サマーキャンプミニなど糖尿病関連事業にも、多くの会員の皆さんにボランティアとして取り組んでいただきました。たるみず元気プロジェクト(垂水研究)・歯と口の健康週間行事・世界腎臓デー in かごしま・市民健康まつり記念講演会(鹿児島市)などの県・市町村・医療団体などと連携して取り組んだイベントなど、会員の皆さんが積極的に取り組む姿に、多方面から高い評価をいただいております。

令和 6 年度からは、新しく障害福祉サービスの一環として、障害者生活介護・就労支援施設の食事提供体制施設のサポート事業が、公益社団法人鹿児島県栄養士会栄養ケア・ステーションに求められるようになりました。在宅(居宅)訪問・特定健診個別対応などの依頼も増加しており、管理栄養士・栄養士の活躍の場も大きく広がりました。

一方、令和 6 年度は、物価高騰・マンパワー不足に苦慮した 1 年でした。いまや窮地に陥っていると言えます。私たちは、この機会こそ仲間を増やし会員の輪を広げていくべき時と捉え、会員獲得に取り組みました。「誰一人取り残さない」社会の構築の原点は、“食のちからにある”を信じて。